

# 本事業の趣旨・ ポリファーマシー対策について

福井県嶺南振興局若狭健康福祉センター  
所長（兼 若狭保健所長）  
四方 啓裕

# 日本は急速な高齢化に直面している

- 高齢者はさまざまな疾患を抱えていることが多い



- 複数の医療機関や診療科にかかる



- それぞれの疾患に対して“標準処方”が用意される



- 多剤重複服用となりやすい環境になる

# 高齢者の約半数は2ヶ所以上の医療機関に通い、5種類以上の薬を処方されている人が最も多い

## 定期的に通院している 医療機関数

	回答者数	割合
1ヶ所	497	47.5%
2ヶ所	369	35.3%
3ヶ所	138	13.2%
4ヶ所	33	3.2%
5ヶ所以上	9	0.9%

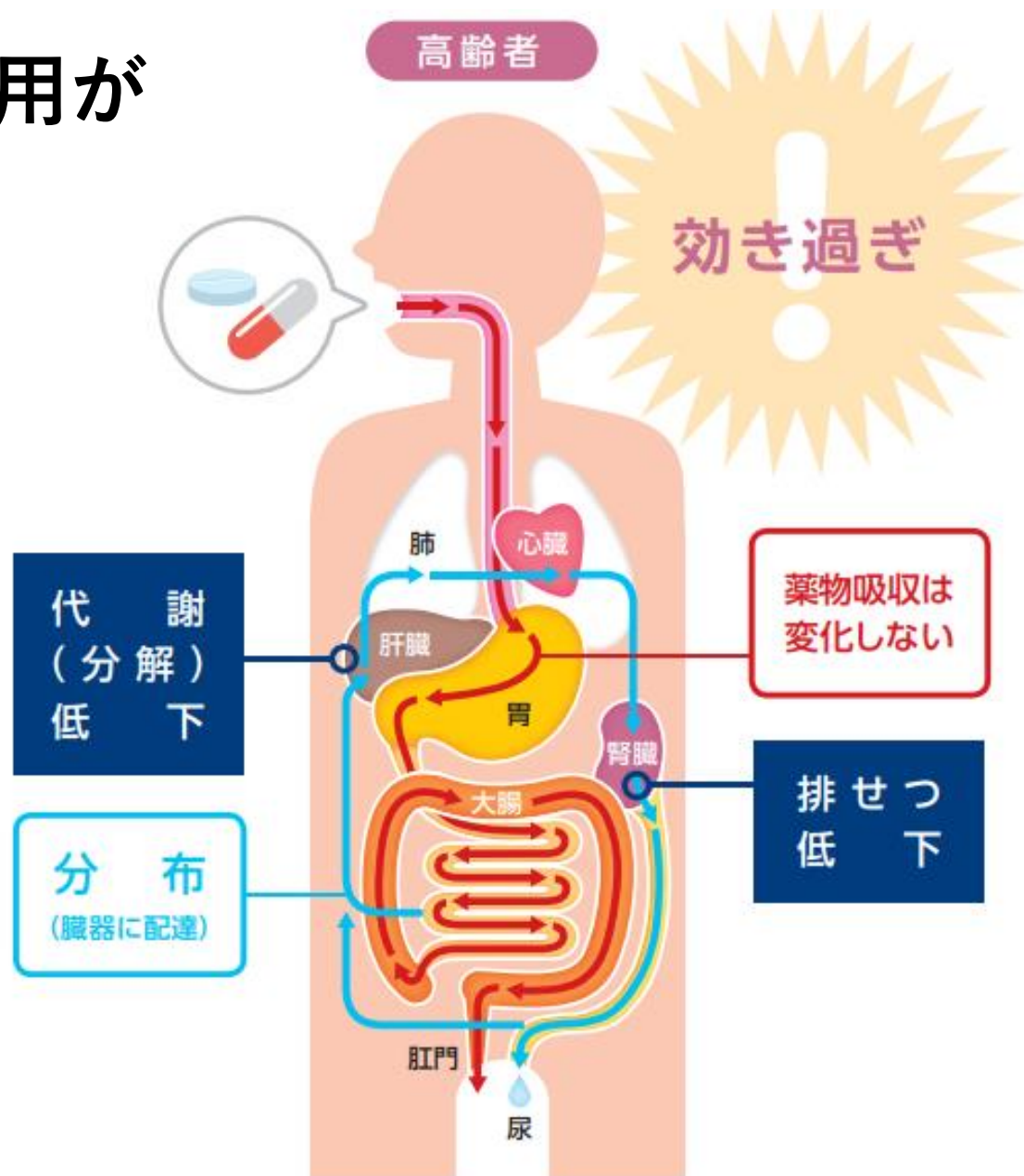
## 処方されている 薬の数

	回答者数	割合
1種類	242	23.1%
2種類	242	23.1%
3種類	176	16.8%
4種類	127	12.1%
5種類以上	259	24.8%

参照：日本調剤株式会社 「シニア世代の服薬の実態と意識」 2015年

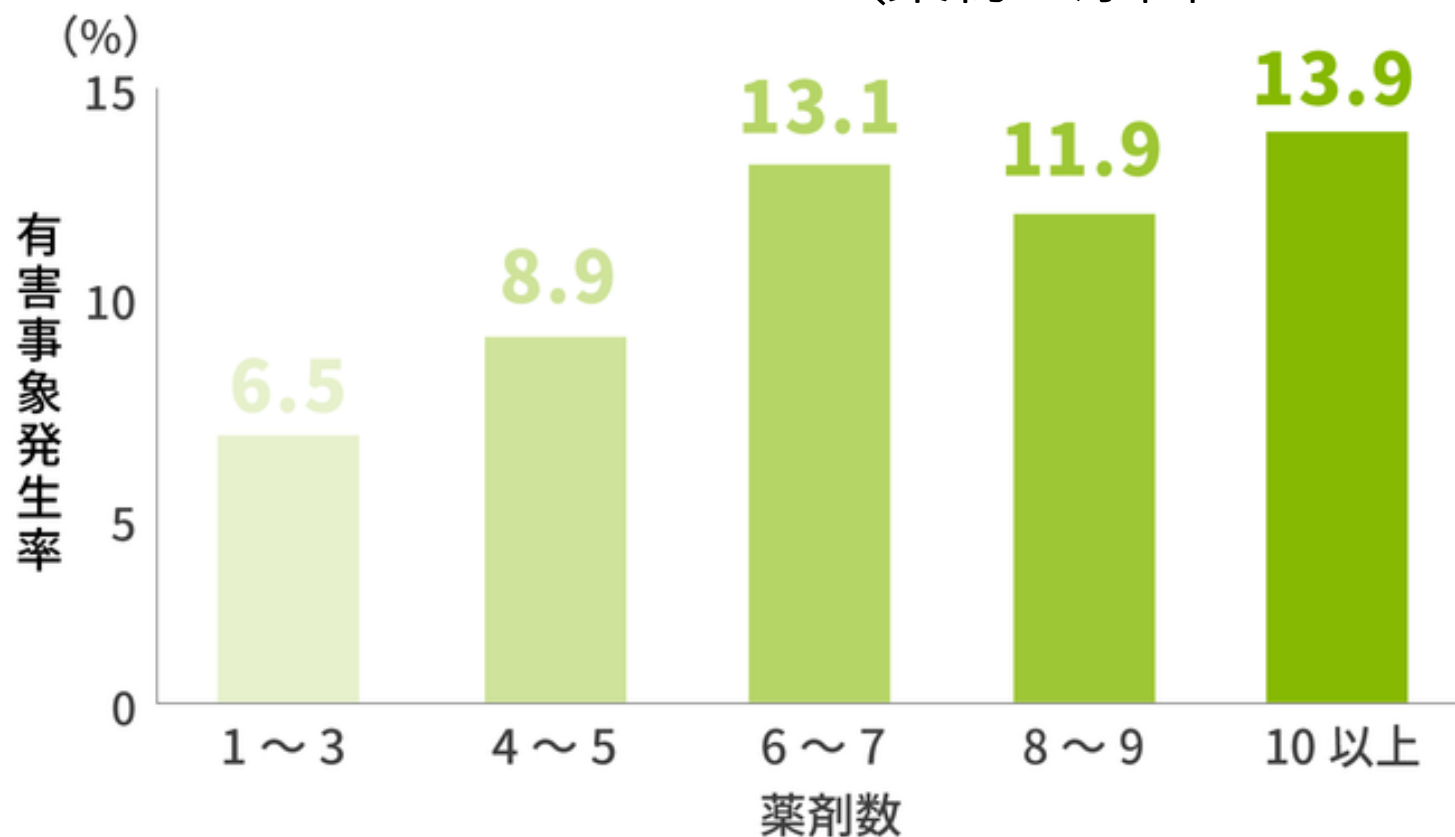
<https://job-medley.com/tips/detail/1119/>

# 高齢者では副作用が出やすくなる



# 服用する薬剤数と薬物有害事象の関連

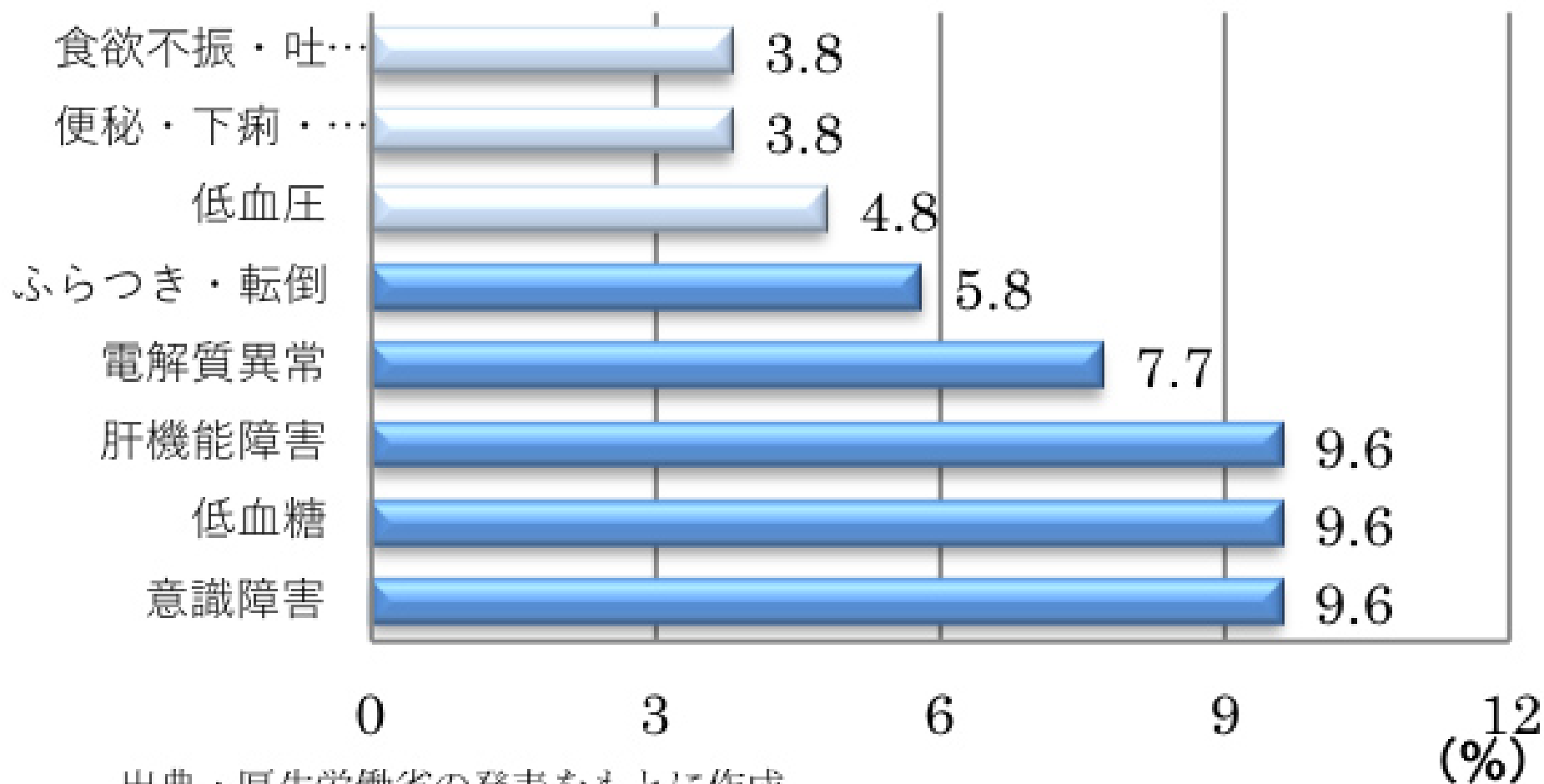
☞ 薬物を服用後に生じる  
好ましくない症状や徴候  
(薬物が原因とはかぎらない)



『高齢者の医薬品適正使用推進事業に係る実態調査・検討一式』（厚生労働省）を基に作成  
2021年4月30日更新

<https://job.minnanokaigo.com/news/kaigogaku/no1020/>

# 高齢者の服用で起きた主要な有害事象



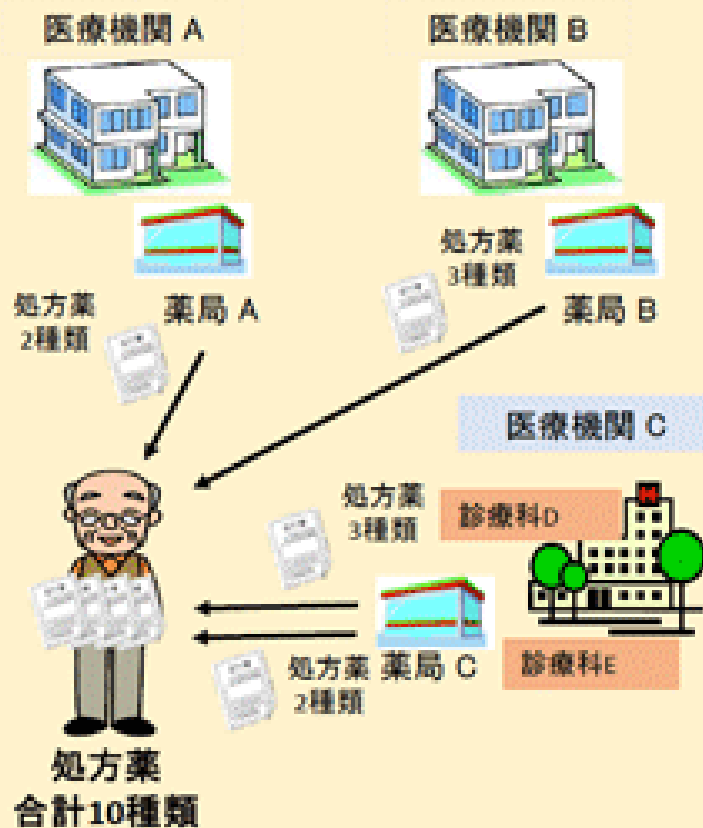
出典：厚生労働省の発表をもとに作成

# ポリファーマシー (Polypharmacy) = 多剤服用でも特に害をなすもの

薬物有害事象、アドヒアランス不良など多剤に伴う諸問題を指すだけでなく、不要な処方、過量・重複投与などあらゆる不適正処方を含む概念

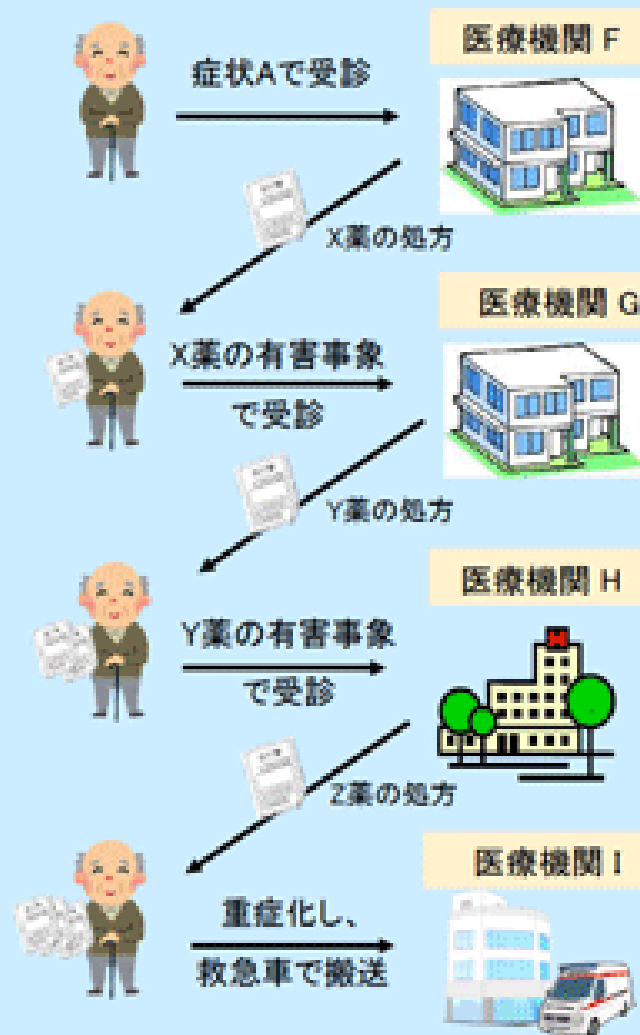


## 例1. 多病による複数医療機関・診療科の受診



ポリファーマシーに関連した問題の発生  
・薬物有害事象  
・服薬アドヒアランス低下 など

## 例2. 処方カスケードの発生

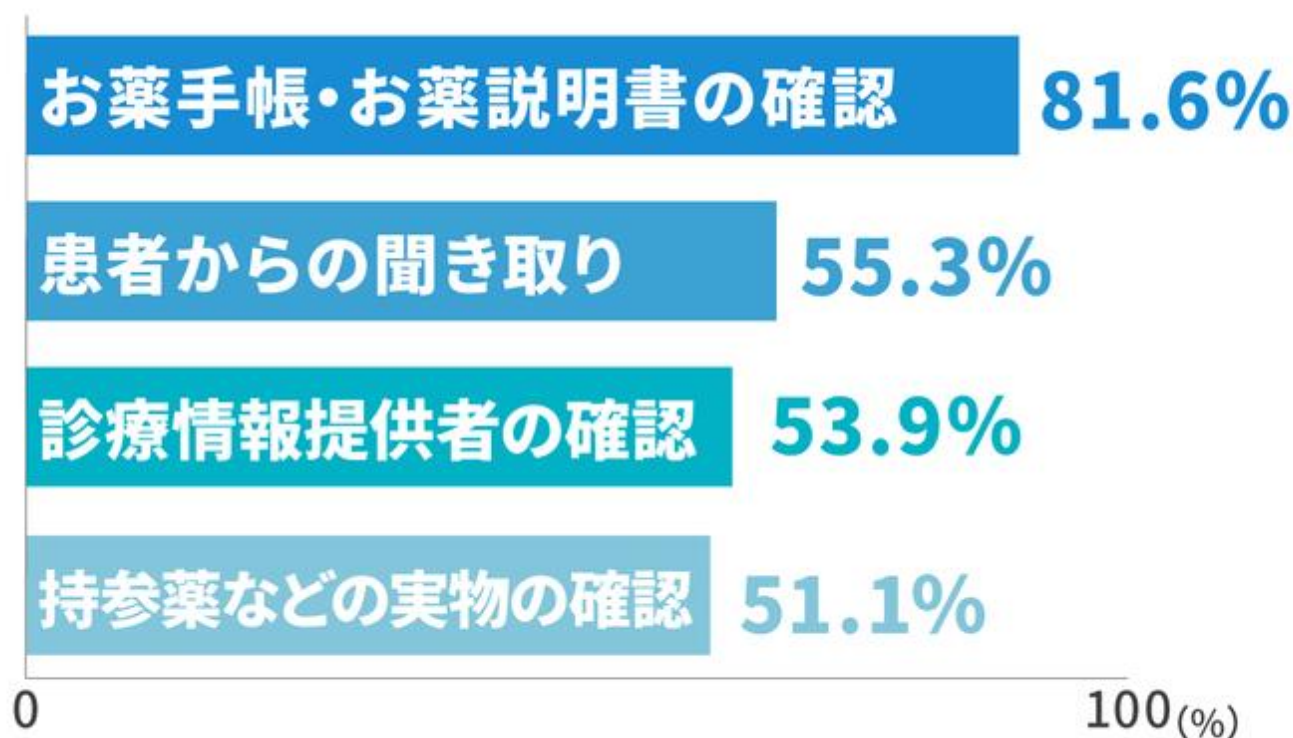


(高齢者の医薬品適正使用の指針(総論編)より、厚労省)



# 高齢患者をポリファーマシーから守りたい

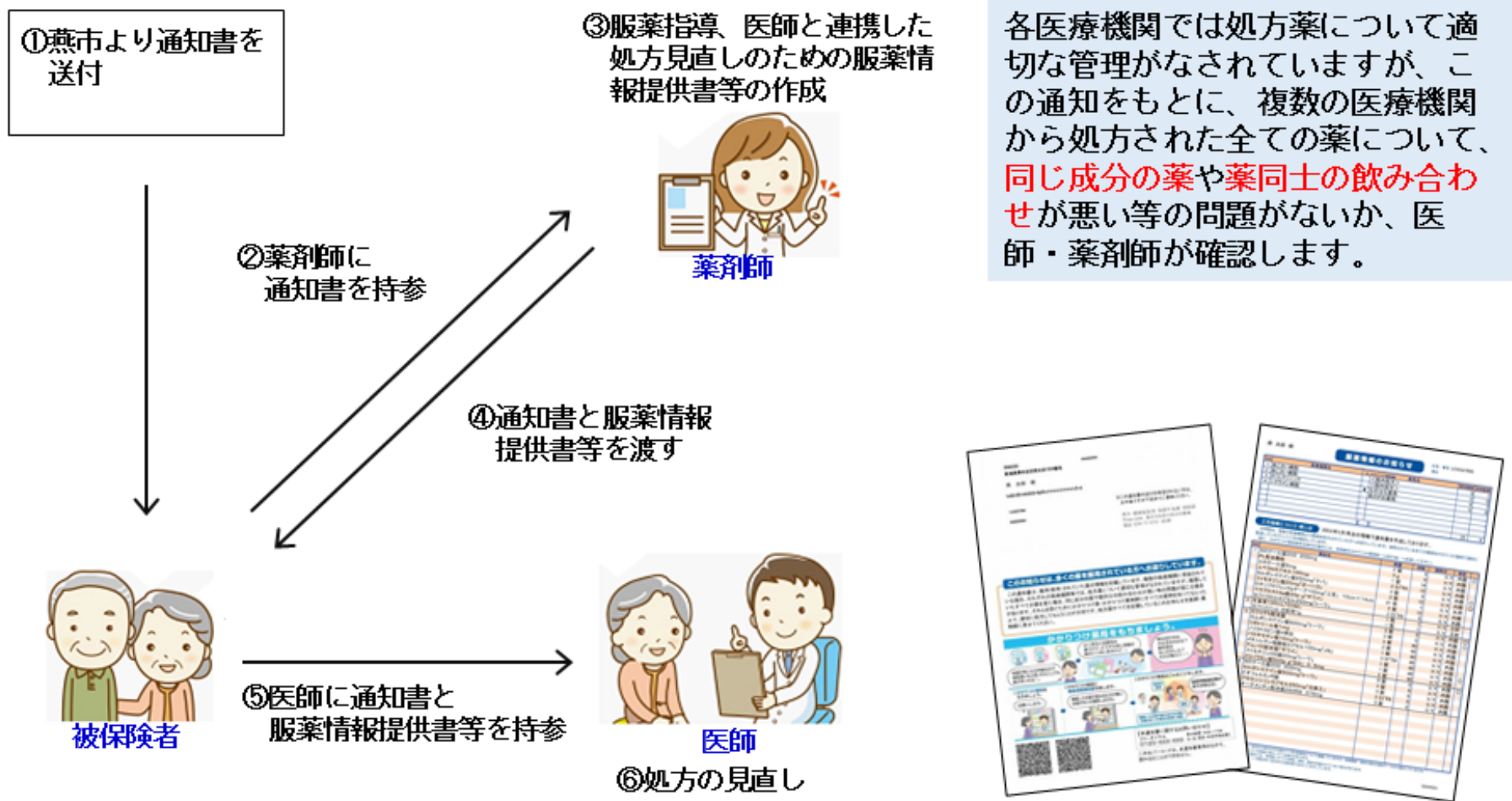
## 外来患者のすべての処方箋を把握する方法



『高齢者の医薬品適正使用推進事業に係る実態調査・検討一式』（厚生労働省）を基に作成  
2021年4月30日更新

<https://job.minnanokaigo.com/news/kaigogaku/no1020/>

# ポリファーマシー(多剤投与等)対策事業を開始



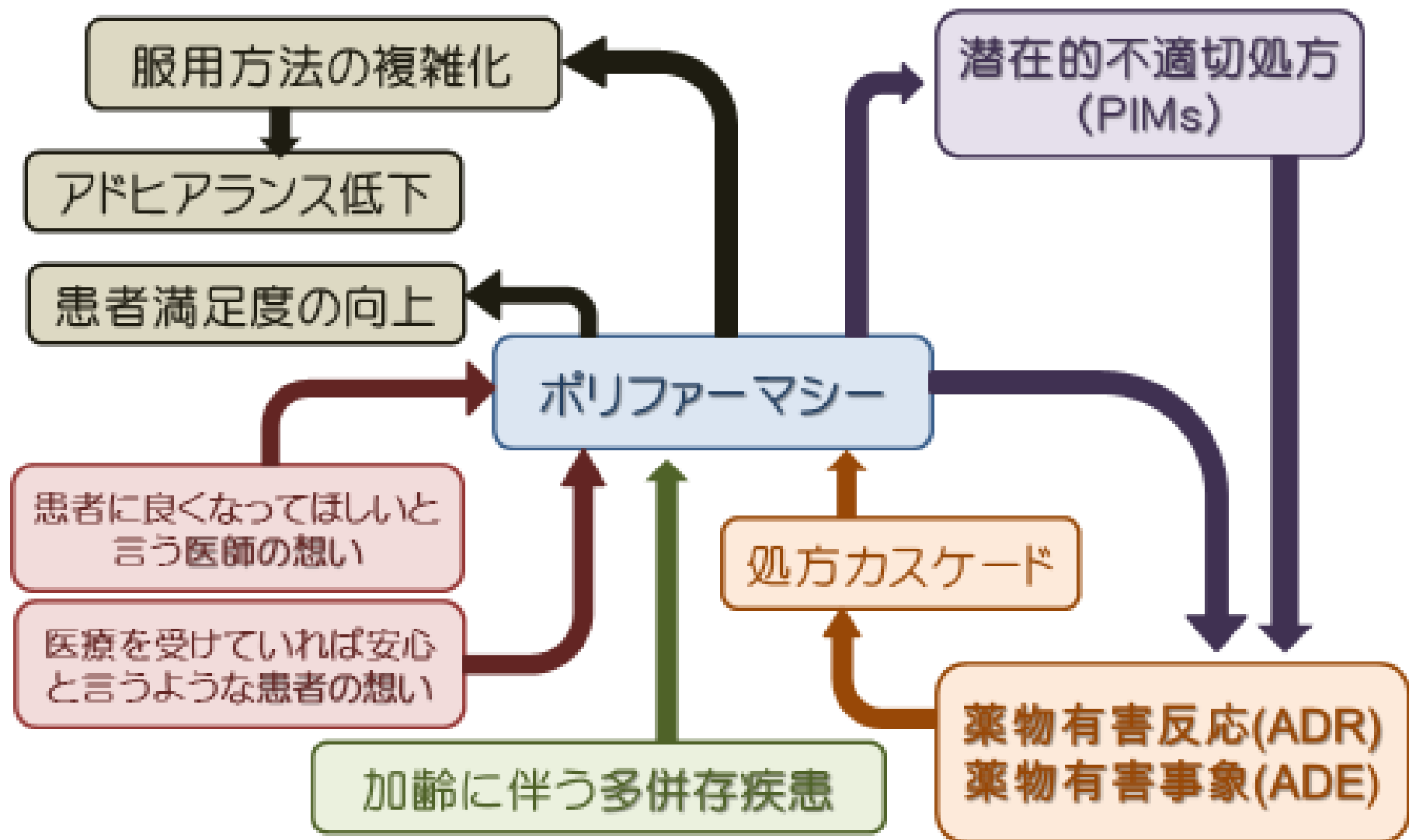
## 通知実績

年度	通知時期	通知数
2018年度	10月から3月	1,038通
2019年度	8月から3月	993通
2020年度	8月から3月	1,000通

# 事業実績・効果

年度	対象者 1人当たり 医薬品種類数	重複服薬 該当者数	飲み合わせの 悪い相互作用 (禁忌) 該当者数	慎重投与 該当者数
平成30年度	11.0種類から 10.1種類に (0.9減少)	51人から 17人に (34人減少)	7人から 0人に (7人減少)	630人から 564人に (66人減少)
令和元年度	11.6種類から 10.2種類に (1.4減少)	69人から 16人 (53人減少)	2人から 0人に (2人減少)	449人から 403人に (46人減少)
令和2年度	11.5種類から 10.2種類に (1.3減少)	72人から 17人に (55人減少)	2人から 0人に (2人減少)	471人から 427人に (44人減少)

# ポリファーマシーの背景と影響



- 医療を受けていれば安心
  - かかりつけ医には全幅の信頼を寄せる
- という患者さんたちの想いは尊重すべき。

ただし、多剤が組み合わせされると医師・薬剤師にも予測しがたい有害事象が生じうることを、高齢患者さん、そのご家族、介護ワーカーなどにあらかじめ広く周知しておく必要がある。

ご清聴ありがとうございました。  
各先生からの報告をご視聴ください。



# あなたのくすり いくつ飲んでいますか？



高齢になると、くすりの数が増えて  
副作用が起こりやすくなるので  
注意が必要です。

監 修：東京大学大学院医学系研究科老年病学教授 秋下 雅弘  
厚生労働省  
制 作：一般社団法人 くすりの適正使用協議会  
日本製薬工業協会

## なぜ、高齢者ではくすりの数が増えるの？

高齢になると、複数の病気を持つ人が増えてきます。  
病気の数が増え、受診する医療機関が複数になることも  
くすりが増える原因となります。

75歳以上の高齢者の4割は5種類以上のくすりを使っ  
ています。高齢者では、使っているくすりが6種類以上にな  
ると、副作用を起こす人が増えるというデータもあります。

### 「ポリファーマシー」って 聞いたことがありますか

多くのくすりを服用しているため  
に、副作用を起こしたり、きちんと  
くすりが飲めなくなったりしている  
状態をいいます。単に服用するくす  
りの数が多いことではありません。



## なぜ、高齢者では副作用が起こりやすいの？

高齢になると、肝臓や腎臓の働きが弱くなり、くすりを分  
解したり、体の外に排泄したりするのに時間がかかるよう  
になります。

また、くすりの数が増えると、くすり同士  
が相互に影響し合うこともあります。

そのため、くすりが効きすぎてしまったり、効かなかった  
り、副作用が出やすくなったりすることがあります。



## 「なにか変だな」「いつもと違う」と感じたら？

くすりを飲んでいて、次のような症状が気になることはありませんか？くすりが追加されたり、変わったりした後は、特に注意しましょう。



### 医師、薬剤師に相談

気になる症状があっても、勝手にくすりをやめたり、減らしたりするのはよくありません。くすりが多いからといって必ず減らすべきということではありません。くすりによっては、急にやめると病状が悪化したり、思わぬ副作用が出る場合があります。必ず、医師や薬剤師に相談しましょう。



## 相談する時は具体的にどうすればいいの？

●使っているくすりは、必ず全部伝えましょう。くすり以外で毎日飲んでいる健康食品やサプリメントがある場合は、その情報も伝えましょう。



●いつ頃から、どのような症状が出てきたのか、気になる症状についてメモしておきましょう。

## 日頃から、注意しておくことは？

●日頃から、かかりつけの医師や薬剤師を持って、処方されているくすりの情報を把握してもらっておくのが安心です。

●自分の処方されているくすりがわかるように、お薬手帳を持ちましょう。お薬手帳は1冊にまとめておきましょう。



もっと詳しいことが知りたい方は、一般社団法人日本老年医学会のホームページに掲載のパンフレットをご覧ください

多すぎる薬と副作用

